

2015 年度

共通科目委員会 総合部会

自己点検・評価報告書

第3章 教育活動と教育体制の整備

「3つのポリシーに基づく学部／研究科の教育について」

学部：カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、特色ある教育体系、初年次教育、キャリア教育、卒業研究

研究科：カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、特色ある教育体系、研究指導
大学ポートレート

：カリキュラム（教育内容の体系化とその充実、教養リベラルアーツ教育）、教育方法（アクティブ・ラーニング、サービスラーニング、少人数教育）、学修についての評価（アセスメントポリシー、外部テストの活用、学修ループリック、GPAの活用、成績評価の厳格な運用、学修成果のフィードバック、学修ポートフォリオ）

現状説明

総合科目は、いわゆる教養教育の流れをくむことから、極力多様な科目群を設置し、学生の自由に任せて、履修を登録させてきた。しかしながら、履修科目数の上限が設定され、学生は、興味の湧いた科目を全て履修することができなくなった。一方、学生側では、分野的に偏った履修を行う学生が存在する。経験の乏しい学生の自由に任せ切り、計画的履修を促しても、その実現は困難である。一方で、科目選択に当たって過度な介入を行うことは、学生の自律を担う大学教育、特に、教養教育においては是非とも避けなければならない。そこで、自主性を損なわないことに留意し、履修計画に一定のガイドラインを提示することが望ましい。

2014年度には、学部長室より総合部会へ、総合科目の履修モデルを検討するよう指示があり、これを受け、総合部会、共通科目委員会で議論が進められてきた。2015年度7月には、「総合科目のカテゴリー化と最低取得単位数の設定」（提言）が総合部会より共通科目委員会に提出され、承認された。今後、来年度からの施行を目途として、教務委員会、教授会で審議を進める予定である。

点検・評価／将来に向けた発展方策

科目のカテゴリー化を行い、学生に分かりやすいカリキュラム編成を提示するとともに、特定のカテゴリーに履修が偏らないようにカテゴリー毎に最低取得単位数の設定し、学生の計画的な履修を支援したい（総合科目の履修モデルの提示）。2016年度からの施行を目指して、議論を進めているところである。

根拠資料

- 1) 共通科目委員会資料：総合科目カテゴリー化提案 20150707

第5章 入試・学生情報

「アドミッション・ポリシーに基づく学生の受入について」

学部、研究科

: アドミッション・ポリシーに基づく学生の受入、入試改革、留学生、女子学生の受入

第6章 学生支援

大学ポートレート

: 修学支援（学びの組織的な支援、中退防止、TA、RA、SA、メンターの活用、入学前教育、ラーニングコモンズ、学生アンケートの活用、キャリア教育、資格取得）

生活支援（学生寮、学生の心身に関する支援）